

社団法人 小千谷青年会議所
理事長 渡部 透 様

秋冷の候 益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、この度は本校並びに被災地宮古に対しまして、心温まるご厚志を頂戴いたしまして、誠にありがとうございました。

ご支援いただきました「薄赤かぶな」の種とプランターは、栽培の説明書とともに、10月7日、本校家庭クラブの有志が、近所にある河南仮設住宅にお住まいの希望する各戸に届けました。事前に仮設住宅を管理する宮古市社会福祉協議会と打合せ、各戸にチラシを配付させていただき、その後、希望するお宅に配付させていただきました。当日は、果たしてどれぐらいの希望者がいるか若干の不安もありましたが、82戸へ配付することができ、被災された皆様の喜びと感謝の気持ちが私どもにも伝わって参りました。

10月初旬は、宮古も最高気温が10度台と寒さを感じる日が続いており、種まきの時期としては不安もありましたが、住民の方々には大変喜んでいただくとともに、生徒へのねぎらいの言葉も掛けていただくことができました。本校は、震災後、地域の復興とともに歩み、ふるさとの復興に貢献できる人材の育成をスローガンに掲げて教育活動を展開しております。今回のご支援は、生徒によるボランティア活動の機会を得られたという面でもうれしいことであり、改めて感謝申し上げます。

住民の中には、「(寒くなってきたので)春になってから大事に種まきをする」という声も少なからずあり、各戸一斉に花が咲くということにはならないかもしれないかもしれませんが、私どもも、仮設住宅が黄色い希望の花で一杯になるのを期待しているところです。

中越大震災の発生から間もなく7年が経とうとしています。完全復興とは未だ言えない状態と推察いたしますが、そのような中からいただいた小千谷の皆様からのご厚情を励みに、本校並びに宮古も一刻も早い復興を目指して頑張っ
て参りたいと思っております。

最後になりましたが、貴青年会議所様の益々のご隆盛と渡部透様のご清祥を祈念し、御礼の挨拶に代えさせていただきます。

平成23年10月14日

岩手県立宮古水産高等学校
校長 金野 仁

